人が育つ仕組づくり

2023年度版

明石市のコミュニティ・スクール

未来を生き、未来を創る資質・能力を育む仕組づくり

社会が変われば

明石市立朝霧小学校
「あさぎり わくわく ラボラトリー」より

魚住まちづくり協議会
「くすのん広場」より

学びの仕組も変わる

視点を変えれば

明石市立松が丘小学校
「松が丘いどばた会議」より

明石市立林小学校
「わたしたちがえがく、林の未来」より

違った世界が見えてくる

明石市教育委員会事務局学校教育課

社会が変われば、学びの仕組も変わる

「学校・家庭・地域みんなで人を育む」ために

なぜコミュニティ・スクールが必要なのか？

加速度的に変化する社会の中で必要な資質・能力は？

一律一斉の授業での知識の習得中心

コミュニケーションの中で、
新しいアイデアや概念を創り出す力
（自分で考え行動する力・学び続ける力）
「生きる力」

複雑化・多様化する子どもを取り巻く環境に対して？

学校に依存する傾向の強まり（教育はサービス業？）

学校・地域・保護者の協働で
いい学校づくり＝いいまちづくり
目の前の子どもたちが、大人になった時
暮らしやすい、希望の持てる社会に

社会を創る当事者意識へ

人が育つ仕組づくり＝コミュニティ・スクール

人は 人を浴びて 人になる
学校・家庭・地域みんなで人を育む
コミュニティ・スクール

課題解決のプラットフォーム

家庭の課題
子育ての悩み
家庭学習
生活習慣
etc.

学校の課題
複雑・多様化する課題
教師力の向上
いじめ・不登校
etc.

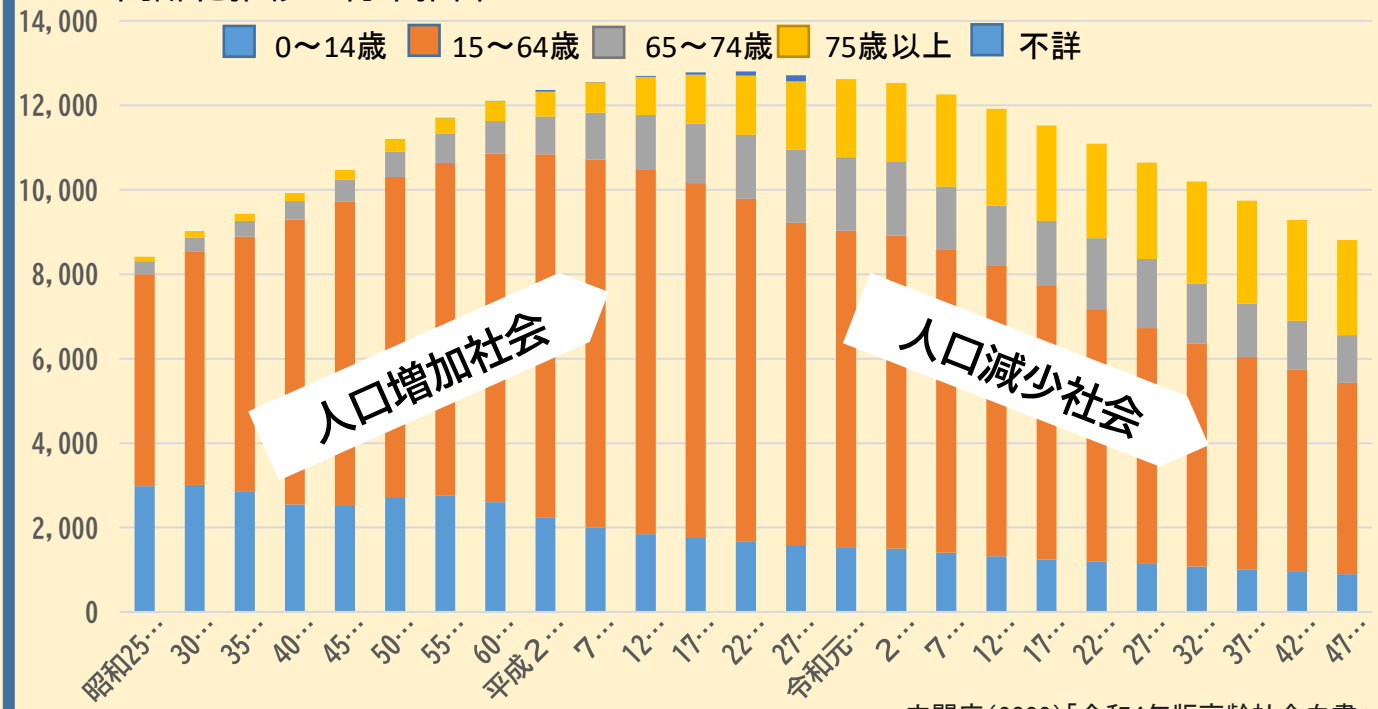
地域の課題
高齢化
地域住民の交流
コミュニティの継続
etc.

日本社会の変化

昭　和　　平　成　　令　和

成功体験　　停滞・凋落　　？？？

高齢化推移と将来推計



内閣府（2022）「令和4年版高齢社会白書」

人口構成、産業構造、技術革新、グローバル化、世界情勢　等

社会の変化のなかで
日本社会が抱える課題

★人口減少に関わる課題

〇国内需要の減少による
経済規模の縮小

〇労働力不足

〇国際競争力の低下

〇社会保障制度のバランスの崩壊

〇財政の危機

〇コミュニティの担い手の減少

〇「人生100年時代」
長い人生の生き方

etc.

★経済成長の低迷

〇ＧＤＰ
（平成2年・1990年））世界第2位
→（令和4年・2022年）世界第3位

〇企業の時価評価ランキング
（平成元年・1989年）世界50社中32社
→（令和4年・2022年）世界50社中1社

★世界一の高齢化率28%

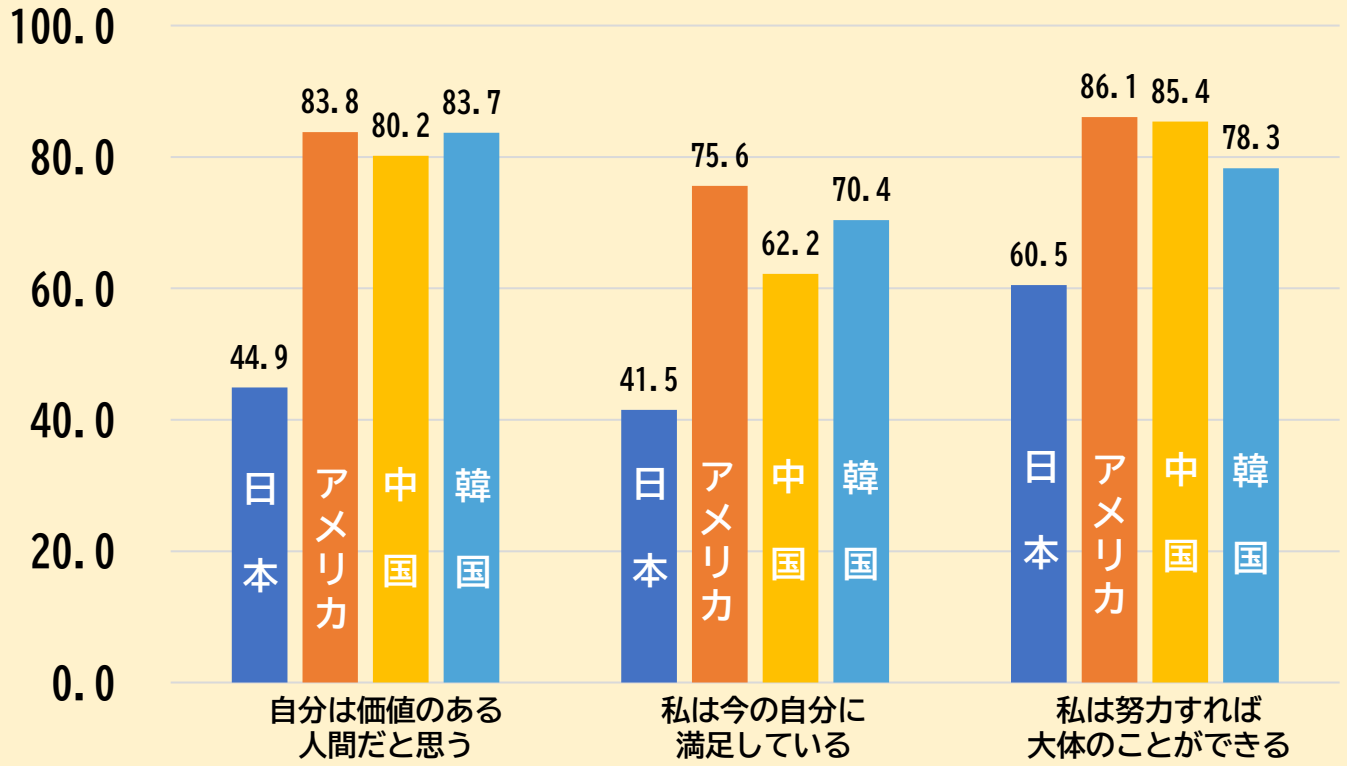
★社会インフラの老朽化

★デジタル化の遅れ

・・・・・・・・・・

人口増加社会の仕組のままでは、人口減少社会には・・・
Change！！

日本の若者の状況
（自分自身について）



国立青少年教育振興機構高校生の生活と意識に関する調査報告書（2015年より）

日本の若者の状況
子どもの幸福度調査ユニセフ報告書レポート16より

◎身体的幸福度（指標：子どもの死亡率、肥満ほか）　１位

〇日本の子どもは死亡率が低い（効率的な医療・保健制度）
〇安全な社会　　〇すぐれた食生活・ライフスタイル

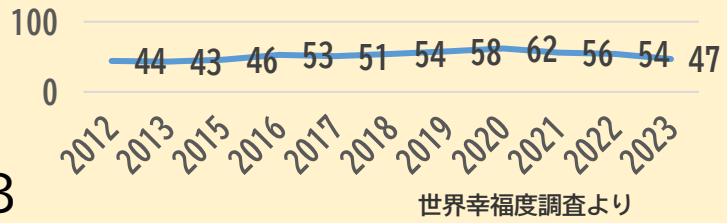
◎精神的幸福度（生活満足度、自殺率ほか）　３７位

〇日本の子どもは生活に満足していると答えた子の割合が最も低い
〇自殺率も平均よりも高い

◎スキル（PISA型読解力・数学分野の学力、社会的スキル）２７位

〇数学・読解力で基礎的習熟度に達している　日本トップ５
〇社会的スキルを身に付けている子の割合が低い

大人の幸福度もみてみると



世界幸福度調査より

①1人あたりGDP、②社会的支援、③健康寿命、④人生の選択の自由度、⑤寛容さ、6腐敗の少なさ
この６項目で幸福度をあらわしたもの

この調査から見えてくる日本
〇健康寿命では世界トップクラス
〇人生の選択の自由度や寛容さに課題がある
→若者の傾向は大人の傾向

「生きる力」を育む必要性

「生きる力」 → 1996年中央教育審議会答申から登場

我々は、これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を生きる力と称することとし、これらをバランスよく育んでいくことが重要である。

認知スキル＋非認知スキル

「生きる力」を目指してきた２５年間

1996年（平成8年）　中央教育審議会答申「生きる力」誕生
1998年（平成10年）生きる力
　⇒「自ら学び、自ら考える」
2008年（平成20年）生きる力
　⇒「思考力・判断力・表現力」
2018年（平成30年）生きる力
　⇒「社会に開かれた教育課程」

現状は

なぜ？？

非認知スキル
忍耐力・自己抑制・目標への情熱
社交性・敬意・思いやり・自尊心
楽観性・自信等
数値化できない力

認知的スキル
知識・計算力・思考力等
いわゆる「学力」

非認知面の弱さ

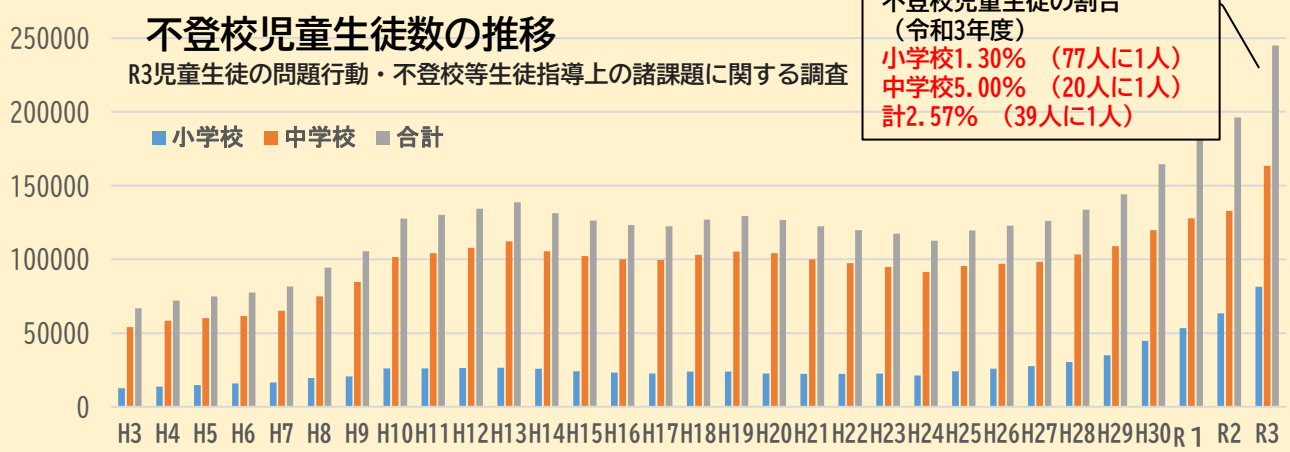
物事の考え方
モチベーション
ストレス管理
社会スキル　等

日常生活
社会活動等に
影響が

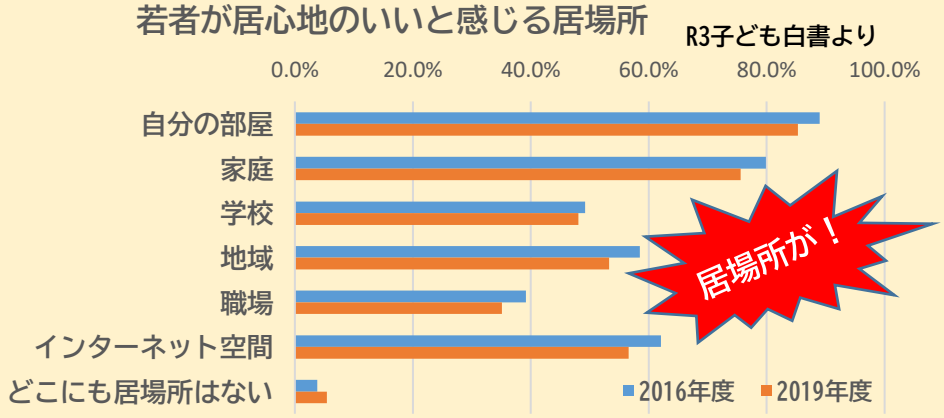
非認知スキルが育つ環境は
- サポート的な環境
- 自律性を尊重する環境
- チャレンジングな環境
- フィードバックを提供する環境
- 多様な学習体験ができる環境etc.

多様な人と、社会とつながる環境が
人は　人を浴びて　人になる

非認知面の弱さの影響？



不登校児童生徒の割合
（令和3年度）
小学校1.30%　（77人に1人）
中学校5.00%　（20人に1人）
計2.57%　（39人に1人）



不登校児童生徒数が過去最高

- コロナ禍の影響？
- 生活環境の変化？
- 交友関係の変化？
- 登校意欲？
- 学びの選択？

子どもの居場所は？

子どもの居場所づくり

→多様な人とのつながり
→非認知スキルに

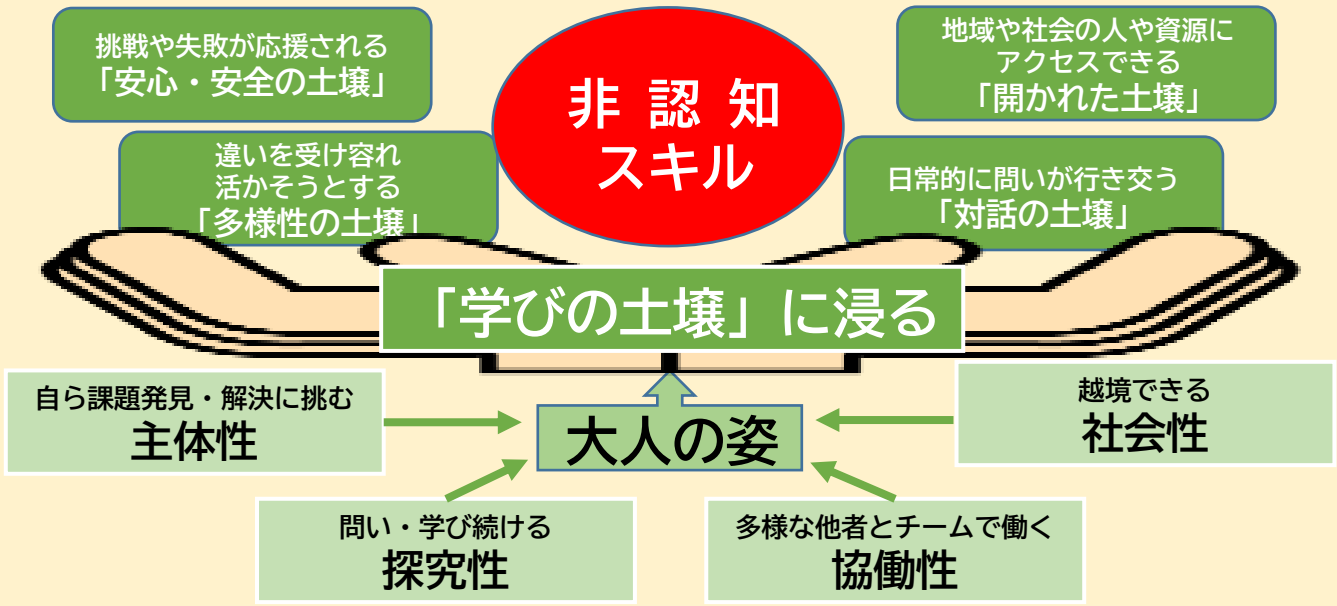
非認知能力を育む「環境」

➡ヒドゥンカリキュラム化へ

「学び」を地域社会に開くのは

「学校を地域に開いていくと、子どもたちは五感で感じられる『ヒト・モノ・コト』という真正の学習資源に出会うことができます。本気で挑戦している大人や本物の課題に触れることで当事者性が芽生え、『もっとこんなことが知りたい』『こんなことをやってみたい』という内発的な意欲が育まれるのです」

参照：岩本 悠　先端教育2021年3月号



参考）三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが協働して開発した「高校魅力化評価システム」

「社会に開かれた教育課程」➡「生きる力」の実現

人口増加社会で機能した社会システム・教育システムからの脱却

日本人の意識を変える教育改革

社会が変われば
子どもたちを　育む仕組（体制）も変わる

2018年度版学習指導要領前文
急激に変化する時代に対応➡「生きる力」の実現

〇少子高齢化により社会は激しく変化、
人口減少、財政難等の課題も深刻化
〇各種調査から見える若者の非認知能力
（社会的情動スキル）の弱さ
社会の在り方が劇的に変わる
➡「Society5.0時代」
先行き不透明な
➡「予測困難な時代（VUCA）」
社会全体の
➡「デジタル化・オンライン化」

「社会に開かれた教育課程」を通して
豊かな人間力を培う

カリキュラム・マネジメントで
教育活動を充実

大人の連携・協働により
地域社会全体で子どもたちを育て、
よりよい社会を創る

学びの世界観のアップデート（ご自身の意識のチェック等に活用できるのでは？）

高校教育改革の要諦は「世界観」の転換にあり：高校教育改革の必然性を理解するために必要な世界観のアップデート
大正大学　浦崎太郎　埼玉教育（2022）より一部抜粋・編集

これまで	観　点	これから
個々の考えや価値観よりも、社会の考え、価値観を優先	個人と社会	個々が考えや価値観を持ち、自己表現することで社会に貢献
偏差値・学歴	社会人に向けての準備	コミュニケーション、ソーシャルスキル等多様なスキルと学び続ける姿勢
封印してみんなと同じが無難	自分らしさ	自分らしさの表現は必須
教えないとできない	子どもは	生まれながらのアクティブラーナー
硬直的な教育システムの中での一斉一律な学び	学び方	個に応じた学びと学び方の多様化
大人の指示に従うことが大切	子どもの自走性	自己決定や自己管理ぬ力を育むために必要
授業時間内・校内で	学び（探究）の機会	放課後・休日も地域・家庭等でも
地域・連携は余分な業務	地域との連携・協働	地域との連携・協働は成長にとって必須
学校が一手に引き受ける	子どもの成長への関わり	学校・保護者・地域が共に

学びの世界観をアップデート

学校運営協議会の充実に向け

対話トレーニング例

目指すゴールを共有する

□講師を招いての研修
□共通の資料を通して
□動画の視聴を通して
} 対話

→素直な感想・意見・問いの共有
→「自分たちに何ができるか」といった対話
→「自分がやってみたいこと」といった対話

参考YouTube動画

あかしコミちゃんねる　　文部科学/mextchannel

育てたい子どもの姿を共有する

□アンケートゲーム
「この地域の子どもたちに、どんな風に育って欲しいか」

- 用紙にテーマについて一人一人が思いを書き出す
- 記入した用紙を集める
- ランダムに読み上げて、書いた人に補足をしてもらう
- 模造紙にその紙を張り出し、キーワードや想いを構造化する
- 共有して見えてきたこと、感じたことをペアやグループで対話する

育てたい子どもたちの姿を実現するためにどんな学びが

□「必要だと感じる学びをストーリーとして考えてみる」

- ○○の大人に出会う➡○○をやってみる➡○○について考える
- 学校と地域で「一緒に」「それぞれ」取組めそうなことを考える
- グループで大切だと思ったアイデア、実現したいことを3～5つ選んでみる。

参照：「協働デザイン入門～地域と学校でともに学びをつくる～」みらいずWorks

対話実践例１）学校・地域・家庭の協働に向けての対話

ビジョンづくり

□ Step１
学校・地域・家庭が抱える課題を共有する

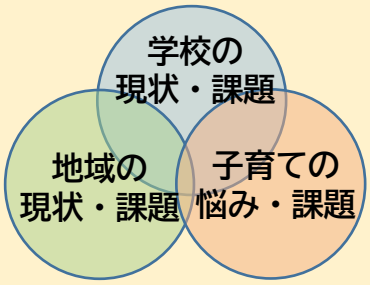
□ Step２
学校・地域・家庭が協働する必要性を理解する

□ Step３
学校・地域・家庭で育てたい子どもの姿を共有する

□ Step４
目指す子どもの姿に向け、どのような学びが必要なのか考える

例えば「学校教育目標」をテーマに

対話 ⬇ 熟議



□現状・課題・悩みを把握＆共有

対話 ⬇ 熟議

〇育てたい子どもの姿
・必要な資質・能力
　・学校の役割
　・地域の役割
　・家庭の役割
・目指すゴールを共有

□「学校教育目標」の共有
学校・家庭・地域が共有したゴールとしての学校教育目標

対話実践例２）学校・地域・家庭の協働に向けての対話

子どもの学びづくり

□ Step１

教科・領域を超えた、子どもの学びに関わる地域・人資源やアイデアを出し合う

□ Step２

地域の中での学びをデザインする（学校・地域・保護者の協働）

・地域の中で、地域を素材に、地域の人と共に学ぶ

□ Step３

学校・地域・保護者が協働した学びの実践

・子どもの学びから、大人も楽しめる学びへ

例えば地域資源を活かした活動づくり

対話⬇熟議

・地域情報の収集・共有

・大人のまち探検・ひと探検
（地域を知る＆地域再発見＆人を知る）

・視点の違ったアイデア
（教師視点でない幅広い視点から）

□地域教材のベースづくり

対話⬇熟議

・具体的な学びづくり
（目指す資質・能力の明確化）

・学年間をつなげるストーリーづくり

□協働で創り出した単元の実践

・協働の深化＆達成感の共有
（当事者意識の高まり）

対話実践例３）学校・地域・家庭の協働に向けての対話

交流の場づくり

□ Step１

・学校が人が集う場になるアイデアを出し合う

・コミュニティの大切さの再認識

□ Step２

・大人も通える学校活用

・学校を核にした地域づくり

例えば「学校が人が集う場に」

対話⬇熟議

学校で、地域でやってみたいこと

・学校・地域資源を活かす

・大人の学びを子どもの学びに

・地域の中から人材発掘

・子どもと共に教室で学ぶ

学校の可能性・地域の可能性

□地域の学びの拠点づくり

学校・地域づくりの当事者に

結果・成果の質＝学校・家庭・地域の関係性の質

２０２３年度は協働に向け、対話から熟議へ
まず、校内・学校運営協議会で、そして地域・保護者へと深まりを

過去に戻るか・未来に進むか今が分岐点！！

成り行きの未来へ

面倒なことが嫌で過去帰り
「変わらない・変えられない」教育の継続

学校で完結可能

コロナ禍で見えた教育の課題

コロナという気候変動で
水位が低下

「勉強の時代」
Society3.0「工業社会」

「学習の時代」へ
Society4.0「情報社会」

「学びの時代」へ
Society5.0「超スマート社会」

世界との差
もはや「教育先進国」では

水面下にかくれていた
課題が表面化

次世代育成に対する大人の意識・態度
学校・地域・家庭の関係性

「新たな価値を創造する」学びの実現
ピンチをチャンスへ

学校で完結不可能

意志ある未来へ

参考・修正：今は「過去に戻るか・未来に進むか」（浦崎太郎　大正大学）

学校・家庭・地域の連携・協働が進むと

【学校】
- 地域の方々の理解と協力を得た学校運営ができる。
- 社会とつながり、地域の人から学ぶ教育活動、教育課程が組める。
- 子どもと向き合う時間が確保される。

【家庭】
- 学校や地域に対する理解が深まる。
- 保護者同士や地域の方々との人間関係が生まれる。
- 地域の中で子どもを育てる安心感が得られる。

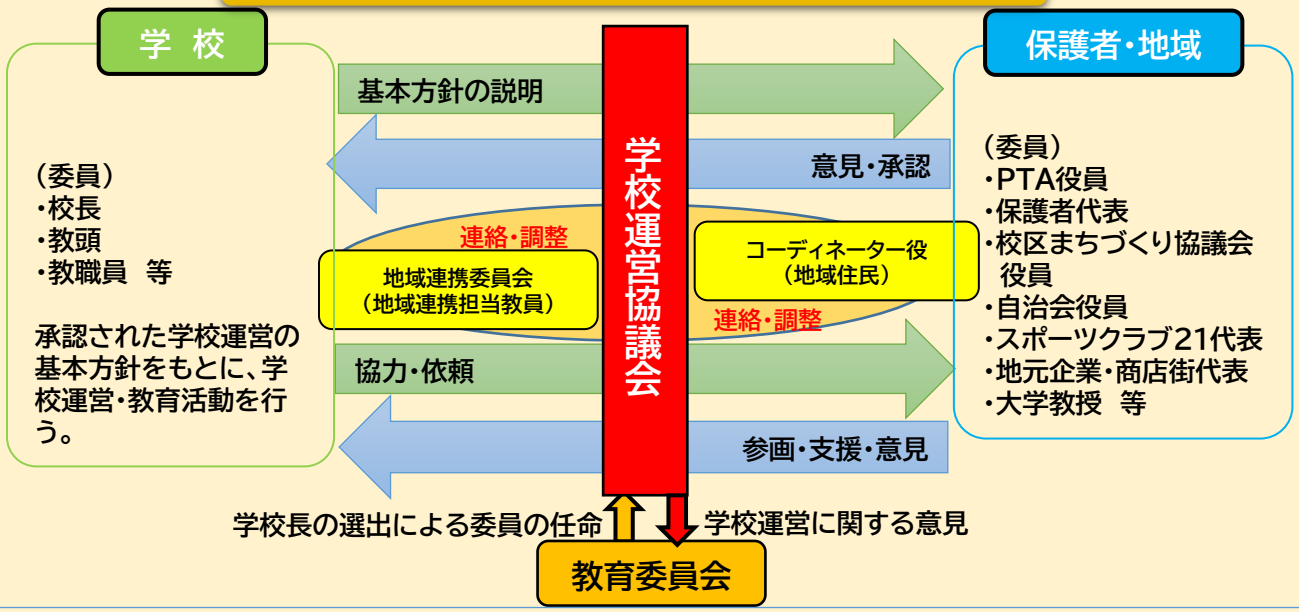
地域とつながり、社会をつくる
当事者意識の高まり

【地域】
- 自身の経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。
- 学校を中心とした地域ネットワークを形成できる。
- 地域の防犯体制等が進み、安全・安心のまちづくり。

【子ども】
- 「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」に出会える。
- 「多様な考え・価値観」、「夢」に出会うことができる。
- 地域の担い手としての自覚が高まる。

資料）

国が考えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）



コミュニティ・スクール＝「学校運営協議会」が設置されている学校

【学校運営協議会の主な役割】（「明石市学校運営協議会の設置等に関する規則」より）

〇校長が作成する学校運営の基本方針の承認をすること（必須）

〇学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。

〇教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。（それぞれの学校の持つ課題解決に向けての一般的な意見）

よりよい学校づくりについて、学校・保護者・地域が話し合います。

資料）

コミュニティ・スクール進捗状況

全国の取組状況（令和4年5月1日現在

コミュニティ・スクール導入状況（学校数）

・全国11，856校（令和3年5月1日）

➡全国15，221校（令和4年5月1日）

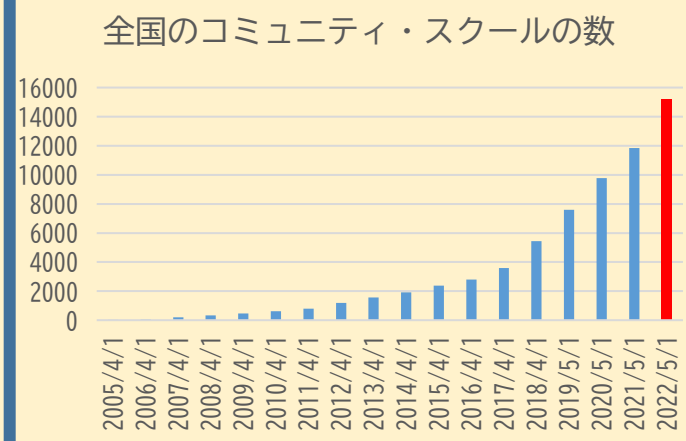
幼：276園→325園　小：7，051校→9，121校

中：3，339校→4，287校

義務：95校→111校　中等：4校→7校

高校：668校→975校　特支：286校→395校

全国の学校のうち48.6%がコミュニティ・スクールを導入



明石市の取組状況

2017（平成29年）年度（取組開始）

〇文科省「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の実施

・コミュニティ・スクール モデル校の設置
（松が丘小学校）
学校運営協議会設置、会の開催（年間4回）

・地域連携担当教員の配置・協働に関する研究

・明石市CS検討会議の設置、開催（年4回）

2018（平成30年）年度

〇コミュニティ・スクール モデル校の拡充
（松が丘小学校、朝霧小学校、二見北小学校）

2019（令和元年）年度

〇市立小学校全校でコミュニティ・スクールを導入

・「学校評議員制度」を廃止し「学校運営協議会」を設置

2020（令和2年）年度

〇市立中学校全校でコミュニティ・スクールを導入

・「学校評議員制度」を廃止し「学校運営協議会」を設置

2021（令和3年）年度

〇高丘小中一貫教育校が開校

子どもが育つ　大人も育つ　地域も社会も育つ
新たな学校園づくり

明石市情報

〇あかしSDGｓ推進計画
（明石市第6次長期総合計画）

〇第3期あかし教育プラン

〇明石市の
コミュニティ・スクールについて

〇明石のコミュニティ・スクール
Twitterページ

〇まちなびAKASHI

〇明石市教育大綱

〇第2次明石生涯学習プラン

〇コミュニティ・スクールだより
「コミコミスクスク」

〇明石のコミュニティ・スクール
YouTubeチャンネル

〇明石市学校園一覧

参考文献）
私たちのコミュニティ・スクールのつくり方(みらいずworks)
協働デザイン入門 地域と学校で学びをつくる(みらいずworks)

SDGs未来安心都市・明石
いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで

明石市教育委員会事務局学校教育課
Tel 078-918-5055 Mail gakkyo@city.akashi.lg.jp